

東交大同窓会報

東京交通短期大学 創立60周年記念特別号



東京交通短期大学同窓会

東京交通短期大学の歴史

建学の精神とその理念

本学は、創設者亀川徳一先生の座右の銘である「質実剛健」の四文字を建学の精神としている。この言葉に込められた理念には、以下に述べるような歴史的な背景がある。

学校法人豊昭学園の歴史は、1928年（昭和3年）、東京神田三崎町に誕生した「昭和鉄道学校」（各種専門学校）に始まる。教育の中心は、1930年（昭和5年）から校長を務めた中川正左先生（元鉄道次官）であった。1936年（昭和11年）からは、亀川徳一先生が学園理事長として経営に当たった。亀川先生はかつて旧国鉄の教習所で職員を教育した経験を生かし、将来鉄道で働きたいという青少年たちの教育にも情熱を注いできた。

戦後すぐに行われた学校制度改革によって、1947年（昭和22年）に「豊島実業高校」と「昭和鉄道高校」が誕生したが、この時亀川先生は、さらに交通専門の高等教育ができる4年制の「東京実業大学」を、ここ池袋の地に設けようと考えた。しかし、大戦後の混乱期にあった当時の状況では、その希望を実現することは難しく、1952年（昭和27年）4月、修業年限2年の「東京交通短期大学」が発足することとなった。

この年は、日本に鉄道が生まれて80周年に当たる時期であったが、自動車はまだ今日のように普及しておらず、明治以来日本の主要な陸上交通は鉄道であった。その鉄道には、高校を出て働きながらさらに学問や教養を身につけたいと切望する青少年たちがいた。亀川先生は本学の講義を夜間に行うことによって、彼らの熱意に応える道を開いた。働きながら学ぶというこの考え方は、広く知識を身につけた職業人を要する交通界からも支援され、専門の講師として国鉄や私鉄から有能な人材の出講を仰ぐことができ、本学の基礎が固まった。

短期大学という制度は、本学のできる2年前、1950年（昭和25年）に大学が旧制度から新制度に移行した際「暫定的な制度」として始まったもので、旧制の女子専門学校がほとんどであった。1964年（昭和39年）になって、短期大学は学校教育法の中に「専門職業教育を行うもの、または実際生活に必要な知識、技能を与える若しくは教養教育を行うもの」と明記され、ようやくその役割が認識されることになった。本学の創設者亀川徳一先生の志がまさにここに実現された。



60年、保たれた役割と使命

東京交通短期大学同窓会会长 半沢 貞夫

母校、東京交通短期大学が、昭和27年4月に開校し、今年で60周年を迎えたことは、ひとえに学校法人豊昭学園・交通短大関係者の献身的なご尽力の賜と確信いたしております。同窓生一同、心より感謝するとともにお祝い申上げます。

開校当時の時勢を見ますと、かつては列車時刻の正確性、能率的な業務運営を誇る日本の鉄道は、世界屈指のシステムとして真価を發揮していましたが、第2次世界大戦により施設のみならず従業員にも大きな打撃となりました。そ

こからの再出発、国の再建のためにはまず国民の教養の向上が叫ばれ、教育制度の整備が図られつつある時代、交通専門の高等教育に情熱を傾ける亀川徳一先生は当初4年制大学の設置を企画しましたが、当時の状況から実現は難しく、結果的に昭和27年4月東京交通短期大学が誕生することとなります。

母校、東京交通短期大学が、昭和27年4月に開校し、今年で60周年を迎えたことは、ひとえに学校法人豊昭学園・交通短大関係者の献身的なご尽力の賜と確信いたしております。同窓生一同、心より感謝するとともにお祝い申上げます。

同じ頃、日本国有鉄道においても、従業員に対する高度の教育の必要性を認め、鉄道開業75周年記念事業の一つとして、鉄道大学の設置の気運が高まり、ついには本省に鉄道大学設立準備委員会が設置され、文部省との連絡もつき、ようやく設立という段階でGHQの横槍が入り、鉄道大学設置もついにさたやみになつたと記録が残っています。

いずれも、業務の余暇を利用して勉学に励みたいという従業員のための施策であり、交通短大の、「勤労学生の向上心に応え、また企業の人材教育機関として期待に添うための夜間学科であり、全国唯一の運輸科を持つ、超ミニ大学」というユニークな方針を学校の役割として継続していただいたことは、私達同窓生の願いを叶え続けてくれたことに結びつきます。

私自身、高校を卒業し国鉄入社のみを考えていた矢先、合理化のため採用がなくなり、途方に暮すこととなります。

にくれていた時、国鉄職員だった父が持っていましたのが、「鉄道公報」に載っていた本校の入学案内でした。入学後の学校生活は夜学のこともあり、大変厳しいものでしたが、鉄道員の仲間との勉学は興味深く、楽しいものでした。卒業後、東洋大学2部に編入することができ、卒業までの気持ちで交通新聞社に入社。国鉄職員への夢は果たせず現在に至りました。

しかし、本校で学んだ専門知識は新聞社での仕事にすぐに応用でき、交通業界の現場であれば尚更だったと思います。もし4年制であったらより深く、知るから研究をする学問に進展していた分野であることは確かで、亀川先生も同様だったのではないか。

現在は、カリキュラムの見直し、コース制の導入、授業時間帯の変更など時代の変化に合わせた運営に変わってきていますが、入学者も定員以上の応募者の中から選別が統いておりますことは、社会に出るまでに、交通に関する知識をより深く学ぼうとする若者に対する教育の役割であり使命であると思います。過去には、鉄道・交通と名のついた学校が各地にありましたが、現在では昭和鉄道高校とわが東京交通短期大学にのみ残るだけです。

それだけ本校に与えられた役割と使命は大きいものと思います。しかし、最近では各種専門学校には鉄道の実務コースを備えた学校も多く、入学者や就職等にますます同窓生のご協力が必要です。本記念号で、皆さんに交通短大の推移と、現状を知つていただき、これからも母校の発展のためにご協力を願い申し上げます。



創立の足跡

学校法人豊昭学園理事長

図師

透

ここに昭和二十七年（一九五二）三月二十八日東京交通短期大学の設立が認可され、三七五二名（五十九回生卒）の卒業生が培つてきた伝統を積み重ねて、創立六〇年を迎えることができました。

これを機に、本学創立から現在に至るまでの経緯を述べてみます。昭和二十七年一月十八日、昭和鉄道高校を経営する昭鉄学園と豊島実業高校（現豊島学院）と豊島第一中学校（現在は廃校）を経営する豊島学園が合併し、中川正左先生（当時昭鉄学園理事長）を初代理事長として、学校法人豊昭学園が組織されました。

高等教育機関設立の意欲に燃えていた亀川徳一先生（当時現豊島学院高校、昭和鉄道高校校長）は、終戦後四年制課程の大学の設置を申請したが、その頃各大学とも教授獲得に苦心していた背景があつて、設立認可が叶わず、そこで旧専門学校に変わる短期大学の制度新設に合わ

せて、昭和二十六年一〇月一〇日、設立申請となりました。本学設置申請要項には、一・優秀なる交通従業員に必要な学術を教授し、その応用能力を涵養させると共に、一般教養を高め健全な人格を有する交通従業員の育成を目的とする。一・豊かな叡智と聰明な教養と円満な人格を有する人材の養成を使命とする。一・東京交通短期大学と称し、修業年限二カ年、学科運輸科第二部、入学定員一八五名（許可は八〇名となる）となっていました。

大学設立認可は、尋常に成立したものではなく、亀川徳一先生が高等教育機関の学校を設立する夢と希望を託してから、十年間の努力の結果であり、鉄道界の重鎮でもあった中川正左先生との各界への日参の賜物でありました。設立

には、当時の国鉄総裁をはじめ、運輸省、国有鉄道、私鉄経営協会、並びに地元豊島区の後援等の協力を得て、教授メンバーには、国鉄総裁、

今後も本学への愛校心を忘れず、ご協力とご尽力を願っています。

新設の交通短期大学は、更に広く交通業界に志す者のために必要な技術技能を授け、専門的実力を涵養し、一般教養を高め、将来我が国の大交通界の中堅となるべき人材を養成して、交通文化の向上に貢献しようとするものであります。その後、学生・高校生の増加と共に教室の不足が生じ、二代目理事長亀川徳一先生は、昭和三十一年に、学園の隣接地を短大用地として買収し、昭和三十三年二月に大学校舎（現一号館）が完成しました。更に昭和三十八年八月には学園の隣接地を購入し、昭和四〇年五月に現短大学校舎が完成しました。以後過年に渡り増築、改修を重ねて現在に至っています。

六〇年を人の一生に例えると、誠にめでたい長寿の証である還暦を迎えたことになります。この還暦というのは、自分の生まれた干支に再び帰るということであり、新たなる出発点に立つことを意味しています。現代では六〇歳、「まだ若い」と言われています。本学もこの先古希（七〇歳）といわば、白寿（九十九歳）に向かって卒業生の皆様と共に初心に戻り、益々活力ある本学を造りましょ。



東京交通短期大学

六〇周年に当たつて

東京交通短期大学学長 田中 宏司

本学は有意な人材の育成を目指す

本学は、昭和二十七年（一九五二年）の創立以来、「質実剛健」（飾りけがなく眞面目で、たくましく、しつかりしている）を旨とする建学の精神を継承・発展させて、社会の発展に貢献する有意な人材を育成するために、たゆまぬ努力を果たして來ている。

近年、本学では教育理念として、交通産業関連分野でリーダーシップを發揮する教養ある専門性を有する人材の育成を掲げ、第一に、時代や社会の要請に対応できる人材の育成、第二に、交通産業および関連分野で専門家として実践力を持つ人材の育成、第三に、誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる自己実現力のある人材の育成に注力している。

これまで多くの同窓生の皆様が、鉄道をはじめ交通事業・観光・物流・流通などの各分野で、信頼される社会人、企業人としてリーダーシップを發揮し活躍しておられることが、『本学の誇り』である。

「キャリア支援科目」の充実

時代の要請もあり、最近「キャリア支援科目」を独立させて、強化・充実し、新入生が企業人になるための実践的な教育や就職活動等の支援をしている。特に、基礎ゼミ、専門ゼミの充実をはじめ、キャリア形成論、コミュニケーション論、実務基礎能力論などを充実させて、一人ひとりの学生が、社会人、企業人としての立派に活動できるような基本的な知識の習得や適格な行動をとれるように教育している。

そのうえで、社会人、企業人として必要な基礎知識・一般教養をしっかりと身に付けるとともに、交通関係の専門科目を通じて、専門分野のプロフェッショナルとして理論と実践を統合して学習するように配慮している。

特別教養講座では、全員が鉄道関連企業などの役員をはじめ評論家、ジャーナリスト、学芸員などの外部講師および本学名譽教授のご尽力をいただき、最新のテーマについて特別講義を実施している。

さらに、企業人になるために不可欠な「企業倫理」「企業の社会的責任（講義名：交通の社

会的責任）」の講義も行つており、これは全国の短大で本学だけの取り組みである。

「判断に迷った時の道標」の提案

同窓会の皆様は、それぞれの分野で、「自分の人生を切り開いている」と認識している。しかし、時には判断に迷うような事態に遭遇する場合もある。

もちろん一人ひとりが、人間として自分の良心に恥じない判断と行動をとること、他の人に思いやりの気持ちで接することなどが大切である。

私は同窓会メンバーとなる学生に対して、本学で培った基本動作である「挨拶、笑顔、誠実」を堅持するとともに、「判断に迷った時の道標」として次の視点を要請している。

〔判断に迷った時の道標〕

第一、あなたの判断と行動は、法律に違反していないか。

第二、あなたの判断と行動は、社会の常識・良識に合致しているか。

第三、あなたの判断と行動は、家族や友人が誇れることか。

同窓会の皆様の社会における活躍が、本学の社会からの評価に直結している。六〇周年記念を踏まえて、将来に向けて皆様一人ひとりが社会の持続的発展に貢献する活動を行うことを願っている。

東京交通短期大学・同窓会

主な出来事（豊昭学園創立80周年記念誌、鉄道運輸年表・JTBより抜粋）

昭和	学校・同窓会の主な出来事	卒業生数 累計	社会・交通界の主な出来事
三年（一九二八）	7月18日 昭和鐵道學校創立。初代校長は、佐竹三吾		第1回普通選挙。東京地下鉄開通（2年12月30日）
四年（一九二九）	5月、昭和鐵道學校、鐵道大臣官房人事課より運輸局事務官の講師嘱託許可の回答		東京～下関間特急22時間40分運転「富士」「櫻」と命名
五年（一九三〇）	2代目校長に、通信省鐵道局運輸局長、鐵道次官を歴任した中川正左就任		金解禁実施。運輸當業にメートル法。東京～神戸間に超特急「燕」新設（所要時間9時間）、清水トンネル完成
七年（一九三二）	5月14日、昭和鐵道學校、昭和高等鐵道學校と改称		上海事変勃発。房総線（現外房線）で自動閉塞式を採用
一八年（一九四三）	10月15日、昭和高等鐵道學校15周年式典、八田嘉明鐵道大臣の祝辞を受ける		2・26事件、日独防共協定調印、日韓事変勃発。超特急「燕」食堂車に冷房装置、D51蒸気機関車落成
二七年（一九五二）	学校法人豊島學園と昭鐵學園が合併し、学校法人「豊昭學園」誕生。東京交通短期大學、設立認可。顧問に国鉄總裁、交通省團總裁、東武鐵道社長など		臨戰ダイヤ実施、旅客列車を大幅削減。運輸通信省設置
二九年（一九五三）	学長に、中川正左就任		NHKテレビ放送開始。東海道線稻沢まで電化完成
三〇年（一九五五）			台風15号により、青函連絡船洞爺丸ほか4隻沈没
三一年（一九五六）			周遊券の発売開始。仙山線で交流電氣機関車試験運転
三二年（一九五七）			国連、日本の加盟可決。東海道本線東京～大阪間電化完成
三三年（一九五八）			伊東線でCTC装置使用開始。鐵道記念物を指定保存
三四年（一九五九）	亀川徳一理事長に藍綬褒章		特急貨物コンテナ列車「たから」号、汐留～梅田間運転
三五年（一九六〇）	亀川理事長、運輸大臣より交通文化賞を受賞		大阪環状線完成。「こだま」編成時速175kmの狭軌世界記録
三六年（一九六一）			常磐線で三河島事故発生
三七年（一九六二）			

		学校・同窓会の主な出来事		卒業生数		累計		社会・交通界の主な出来事	
年	月	年	月	年	月	年	月	年	月
三八年（一九六三）									
四〇年（一九六五）		第7校舎（現交通短期大学校舎）完成		六一	五七八	四三三		信越本線アプト式を廃止、東海道線で鶴見事故発生	
四一年（一九六六）				四九	六二七			国鉄主要駅に「みどりの窓口」設置	
四二年（一九六八）		10月7日、交通博物館（現交通資料館）開館式		三八	六六五			国鉄全線にATS設置完了	
四三年（一九六九）		学長に、棚橋朝夫就任 9月、亀川徳一先生逝去		六九	七三四			山陽新幹線（新大阪→岡山間）起工	
四四年（一九七〇）		東京交通短期大学、運輸コース、観光コースを設置。就職ガイド		三三	七六七			東北本線全線複線電化完成	
四五年（一九七〇）				二三	七九〇			国鉄財政再建計画が発足、1等車を廃止し普通車とグリーン車に、東海道新幹線16両運転（世界最長の旅客列車）	
四六年（一九七二）		交通論叢創刊		二五	八一五			日本万国博覧会開催（大阪）。山手線に冷房車登場	
四七年（一九七二）		学長に、早田喜稔就任 東京交通短期大学、「校友会会員名簿」作成		三一	八四七			東名バス高速線東京→神戸間に夜行使「ドリーム」号運転	
四八年（一九七三）		東京交通短期大学同窓会設立、初代会長に新井山勝弘 東京交通短期大学同窓会会報創刊		二三	八七〇			鉄道開業100周年、日中共同声明発表、札幌オリンピック開催	
四九年（一九七四）				二五	九〇一			第1次石油危機、武藏野線自動出改14駅含み完成。運輸大臣、北海道・東北・北陸・九州・長崎新幹線の建設指示。	
五〇年（一九七五）				二五	九二六			新幹線「ひかり」食堂車営業開始。山手線にシルバーシート設置	
五一年（一九七六）				一一	九三七			国鉄再建対策要綱閣議了承、国鉄新財政再建計画が発足	
五二年（一九七七）		学長に、大沼昭里就任		二五	九六二			国鉄動力近代化計画完了によりSLが姿を消す	
五三年（一九七八）		昭和鉄道高校創立50周年		二五	九八七			「日本国有鉄道の再建基本方針」閣議了解	
五四年（一九七八）				二五	一、〇二三			東京国際空港開港。「いい日旅立ち」キャンペーン開始	
五五年（一九八〇）				三六	一、一七四			「国鉄再建の基本方針」閣議了解	
五六六年（一九八一）		東京交通短期大学、学園祭「第1回東交祭」開催		五一	一、一七四			「国鉄経営再建促進特別措置法」が成立	
五七年（一九八二）		学長に、高橋秀雄就任 東京交通短期大学創立30周年、東京交通短期大学卒業総数1000名を超える、中国留学女子学生の卒業生誕生		四三	一、一七四			東北・上越新幹線開業。国鉄電化率40・キロ、複線化率26・6キロ、自動信号化率60・1%。「国鉄再建監理委員会設置法案」閣議決定	

学校・同窓会の主な出来事	卒業生数	累計	社会・交通界の主な出来事
五八年（一九八三）	五五	一一二八	「日本国有鉄道の経営する事業の推進に関する臨時措置法」公布
五九年（一九八四） 東京交通短期大学、コンピューター実習が開始	五〇	一二六八	国鉄再建監理委員会「国鉄改革に関する意見」を総理大臣に提出
六〇年（一九八五）	四五	一三二一	東北・上越新幹線上野開業。国鉄オレンジカード発売
六一年（一九八六） 東京交通短期大学同窓会10号記念特別号発刊	五六	一四〇六	「国鉄経営改善緊急措置法」交付
六二年（一九八七）	五〇	一三五六	国鉄は115年の歴史に終止符。JR旅客・貨物会社スタート
六三年（一九八八） 豊昭学園創立60周年	五六	一四六二	青函トンネル・瀬戸大橋開通、青函・宇高連絡船廃止。門司港駅駅舎が国の重要文化財に指定
六四年（一九八九） 東京交通短期大学同窓会第2代会長に鈴木靖男	六九	一五三一	消費税3%導入。東武鉄道「東武博物館」開館
平成元年（一九九〇）	一〇七	一六三八	JR東日本、東京駅などに自動改札機を設置
二年（一九九〇） 学長に、今井則義就任	八四	一七二二	東北・上越新幹線東京開業
三年（一九九〇）	一〇六	一八二八	山形新幹線開業、JR東海佐久間レールパークオープン
四年（一九九一）	一一三	一九四一	JR東日本株式上場。信越線碓氷峠の鉄道施設が重要文化財に
五年（一九九二） 東京交通短期大学第3代同窓会会长に白井仁三	一〇四	二〇四五	阪神大震災発生。JR東日本東京駅中央線重層化新ホーム使用開始。青森・鹿児島間高速道路で結ばれる
六年（一九九三） 学長に、増井健一就任	一一一	二一四七	秋田・長野行新幹線開業。旧国鉄本社ビル閉鎖。消費税5%に
七年（一九九四） 東京交通短期大学、基礎教養ゼミとして、中国語、鉄道運輸論、自動車交通論を開講	一一二	二二五四	長野オリンピック開催。JRグループ「周遊きっぷ」発売開始。「ワイド・ミニ・ニューワイド周遊券、一般・グリーン周遊券」の発売を終了
八年（一九九五）	一一〇	二二五四	JR西日本、株式上場
九年（一九九六） 豊昭学園創立70周年	一一一	二三六五	秋田・長野行新幹線開業。旧国鉄本社ビル閉鎖。消費税5%に
一〇年（一九九八） 東京交通短期大学研究会による「交通論叢第38号・研究紀要第8号合併号・今井前学長追悼論文集」を発行	一一〇	二四六六	長野オリンピック開催。JRグループ「周遊きっぷ」発売開始。「ワイド・ミニ・ニューワイド周遊券、一般・グリーン周遊券」の発売を終了
一一年（一九九九） 学長に、廣岡治哉就任	一一一	二五七二	山形新幹線山形・新庄間延伸開業。
一二年（二〇〇〇） 東京交通短期大学、交通見学会、年1回開催。学内報「オンライン」を復刊。学生会発足	一一〇	二六六一	関東地区17社、共通乗車カードシステム「バスネット」導入
一三年（二〇〇一） 東京交通短期大学、創立50周年プロジェクトの一環として「東京交通短期大学研究会」を拡大・発展させ、「東京交通学会」として発足	一一〇	二七六一	JR東日本、東京近郊区間でICカード出札システム「Suica」導入。

学校・同窓会の下線出来事	卒業生数	累計	社会・文壇界の下線出来事
一四年(二〇〇一) 5月、東京交通短期大学創立50周年記念式典挙行。JR東日本会長松田昌士氏の記念講演。東京交通学会が記念論文集を発行	九九	二、八六〇	JR東日本、東北新幹線盛岡→八戸間開業し、東北本線は第三セクター鉄道に転換
一五年(二〇〇二) 学長に、阿部敏彦就任	八一	二、九四一	JR西日本、ICカード「ICOCA」を導入。山梨リニア実験線有人走行で時速58キロの世界記録更新
一六年(二〇〇三) 東京交通短期大学入学志願者151名、入学者116名、入試倍率1・25倍に。	一〇八	三、〇四九	九州新幹線新八代→鹿児島中央間開業。
一七年(二〇〇四) 第5回国際鉄道模型コンベンションに、鉄道模型部が出展	九三	三、一四二	東海道新幹線早期地震警報新システム「テラス」使用開始
一八年(二〇〇五) 東京交通短期大学、AO入試を導入 学長に、渡邊一治就任	一〇七	三、二四九	東京交通短期大学、東京都短期大学協会の単位互換事業に参加、スタート。
一九年(二〇〇六) 東京交通短期大学、東京都短期大学協会の単位互換事業に参加、8月、日本私立短期大学協会主催、第41回全国私立短期大学体育大会にバトミントン部が出席	八四	三、二三三	8月、日本私立短期大学協会主催、第33回学生英語スピーチコンテストに参加
二〇年(二〇〇七) 学長に、田中宏司就任 東京都私立短期大学協会コンソーシアム事業学生作品共同発表会に、鉄道研究部が参加	八六	三、四一九	12月、東京都私立短期大学協会主催、第33回学生英語スピーチコンテストに参加
二一年(二〇〇八) 東京交通短期大学同窓会第5代会長に半沢貞夫	七二	三、四九一	関東の交通事業者、共通のICカード「PASMO」導入。JR東日本「鉄道博物館」開館
二二年(二〇〇九) 同窓会、「東交祭」に同窓会コーナーを設置	九一	三、五八二	初代新幹線車両「0系」、44年間の活躍に幕。JR北海道、ICカード「kitaca」導入
二三年(二〇一〇) 東京交通短期大学、第3者評価に係る機関別評価で「適格」を受ける。 東交祭の同窓会コーナーにおいて、東日本大震災の義援金を募り、三陸鉄道(株)様に見舞金としてご寄付	九二	三、六七四	東京発のブルートレイン「富士」「はやぶさ」廃止、JR九州ICカード「SUGOCA」導入
二四年(二〇一一) 11月、東京交通短期大学創立60周年記念式典挙行	九〇	三、七六四	東北新幹線八戸→新青森間開業 東日本大震災発生。九州新幹線、博多→新八代間開業。国土交通大臣、JR東海にリニア中央新幹線建設指示。 東京駅丸の内駅舎保存復原工事完成

近況と東交大の思い出

編入、卒業の経験を生かし経理専門学校の講師を一〇年余行いました。若い人を相手に新鮮な気持ちで楽しく仕事をすることができます。

一昨年に退職し、今は自由時間を有効に健康第一にすごしております。八月下旬に中国語の勉強仲間と上海へ一週間ほど合宿の予定です。



第六回生
天野 博昭

東京交通短期大学を卒業して半世紀余の歳月が経ちました。青春時代の二年間、毎夜真面目によく通学したものだとなつかしく思い出されます。当時は富士急行本社の経理部に在籍し職場の大手町から都電、バスをのりつぎ仕事のあと学校にかけつける毎日でした。富士急行では東京交通短期大学の開校とともに社内選抜試験の上、毎年一・二名を委託学生として東京へ転勤させ勤務のあと通学させる制度を実施しておりました。私はその第六回生として同期の安富勝彦君と通学しました。諸先生はもとより特に事務局の福王さんは笑顔で励ましていただきました。教室では勤労学生としてお互いに職場こそ違いますが、クラスメイトとの語らいは疲れをいやし皆で頑張り抜きました。卒業以来皆で会う機会もなく残念なことにその後亡くなられた方がおられ寂しさを感じております。

富士急行では、会社内の東交大同窓会を年一回開催し、一泊して懇親会と翌日有志でゴルフを楽しんでおります。昔話と近況を気楽に語り合い情報交換の場として楽しい時間をすごしております。私は定年退職後、会社での経理実務の経験と東交大卒業と同時に日大商学部三年に



皆に支えられて



第一〇回生
川崎 勝信

人が成人し社会人と大学生になり、私の健康を気づかってくれるなど立場が変わりました。今後は周囲の皆さんに迷惑をかけないよう元気ですごしたいと思う今日この頃です。最後になりますが、東京交通短期大学の創立60周年を心からお祝い申し上げ益々のご発展をお祈りし、同窓生各位のご健勝をお祈り申し上げます。

昭和三十六年、富士急行の本社は、丸の内の新大手町ビル五階にあった。

会社の派遣学生の試験に受かって、配属されたのが総務部傍系課。初めての東京勤務がうれしかった。課長は東京交通短大二回生の牛田東助氏で、課内には一年先輩の和田元孝氏、部内の経理課には、井上康彦氏と天野博昭氏がいた。五時の終業。みんな残業しているのに、早く行けと声をかけてくれる。

東京駅から池袋に出て、そこからバスに乗る。停留所の名前は忘れたが、一〇分ぐらい乗ったと思う。学校は停留所のすぐ傍にあった。六時から授業が始まるので、夕食を食べている暇はない。ときには我慢ができない、遅刻承知で池袋で立ち食いをした。

学校の事務室には、事務長の鈴木さんと福王さんがいた。福王さんは笑顔を絶やさないすてきな女性だった。一人ともよく学生の面倒をみ、便宜をはかつてくれた。

授業は一日二時間だったと思う。一年生で一般教養、二年生で交通関係の専門科目を教わったが、授業は哲学が好きだった。蓬田清吉君といいう頭のいい人と友達になり、クリスチャンで

ある彼に誘われて教会のミサに参列したこと
も、いい思い出になっている。

卒業と同時に彼は明治学院大学に編入し、私は明治大学の第二文学部に進んだ。受かる自信がなかったので、二年生に編入した。熱海市に異動してからも、職場の上司、先輩のはからいで二年間通つたが、山梨県へ異動になり中退、私の夜学生活は終わった。

今思えば、富士急行の社員教育制度がなければ、この豊かな経験はなかつた。社内の多くの先輩達にも助けられた。そのお陰で今の自分がいる。ありがたいの一語につきる思いしきりである。

(富士短歌会 主宰)

交通短大を卒業して



第十一回 生

飯島 正雄

東京交通短期大学創立六〇周年お出度うござります。長い歴史の中で、私も二年間学ぶことが出来た事、誇りに思っています。

私は五〇年前（昭和三十七年）の四月、本学に入学しました。学生の殆んどは、昼は鉄道・バス・貨物輸送、旅行業等交通関係の職場で働きながら、夜学んでいました。仕事と専門科目が一体である事を実感していました。年令も

一〇代から五〇代迄幅広い年齢層の方が在学し、学友として互いを尊敬し、良い雰囲気の中で講義を受けていました。

私は、一年次の教養科目では、法学、哲学、経済学、英語、ドイツ語が好きな学科でした。

短大卒業後は、明治学院大学文学部英文学科に二年次編入学し、卒業時には、教員資格を取得しました。大学卒業後、百貨店に入社、生きた

経済学を実践してきました。三年後、不動産部が創設され、宅地建物取引主任者の試験を受け、資格を取得しました。短大時代一年間法学の講義で民法を学んだ事が役立ち、「六法」が座右の書となりました。五〇代になり、不良債権回収の為、貸金業法を独習し、抵当権設定、訴訟、競売等の法律行為をしてきました。又、社員教育際、哲学の話をすると、目を輝かせ、真剣に聞く姿が印象的でした。

二年次、陸運論の浅野教授より、論文レポートの書き方指導があり、実社会では大変役立ちました。

短大の二年間は、私の人生の基礎を築いた時であったと思います。卒業生の皆様も、多分同様の感慨をお持ちの方が多いと思います。在校生の皆様も、短大二年間に学んだ事が、実社会で大変役立つ事だと思います。ご健闘を祈っています。



第十三回 生

川島 一郎

国鉄では、駅業務、操車場での列車組成、貨物列車の車掌、旅客列車の車掌業務を経て管理局に勤務。赤レンガの東京駅を窓外に見ながら長く人事課に勤務し、褒賞懲戒・採用任免・給与制度、庶務業務、出向相談等を担当した。他にも総務課、厚生課業務も行なつた。この間、国鉄民営化～JR発足の大変化の中にあって、人事課で移行時業務の真只中に係わり、JR東日本になり更に大きな変革に係わつて貴重な業務経験をした。川崎駅長着任の朝に忌まわしいサリン事件が発生し、上野車掌区長の在任中に長野新幹線開業に伴う在来線の碓氷峠廃止があり、受持ちの特急八本を廃止し他列車との受持ち変更など厳しい状況もあった。JR東日本グループの不動産管理会社に移つて一〇年弱、人

東京交通短大六〇周年を祝して

事務、SC事業、高架下貸付管理、物販飲食事業、住宅販売事業と実に幅広い業務を行なつた。今は東日本鉄道OB会業務を奉仕の気持ちで行なつてゐる。

国鉄、JR東日本、同グループ会社に勤務しながら、また鉄道OB会にいても、特徴ある母校の卒業生として胸を張り東京交通短大卒・昭和鉄道高校卒業と名乗り、母校に迷惑を掛けない気持ちで勤め、またそれが自律させて今日に至つたと思つてゐる。そんな気持ちから、東京交通短大同窓会の発足に係わり、長きに渡り役員として地味な活動をさせて頂いた。

東京交通短期大学創立60周年をお祝いし、

更なる継続的発展を祈念します。



第十五回 生

阿部 孝昭

交通短大を卒業して得た恩恵

昭和四十三年交通短大を卒業、同年結婚した。結婚により家族が普通の生活ができるための責任を自覚した。仕事にも家庭生活にも希望と確信が持てる努力が必要と思い、今までの浮いた気持ちを払拭し、現業社員として旅客・荷貨主に信頼される駅務員になるため規則・規程・地理等に明るく、良質のご案内ができるにはどうすれば良いかを考えた。会社発展と自己の存在

価値を高めるには、向学心を忘れず、会社の駅務コンクール（五位・二位・最優秀に入賞）昇格した後、良い管理職になるにはどうすれば良いかを大手町にある労働基準局に問い合わせた。国家試験にチャレンジし、資格取得の助言を得ることができた。管理職試験の前年、四十六年に取得した危険物取扱者乙種第四類も実績としてあつた。管理職は、個人の知識に限らず、職場の人達が健康で仲良く働く環境づくりが必要である。四十八年衛生管理者は、四十七年に労働安全衛生法が労働基準法から別途独立した法律として着目したこともあり、危険作業の多い鉄道の会社上層部が当時の「業務上の安全と健康への思い」を理解してくれたことがうれしかつた。次に三年がかりで受験した社会保険労務士国家試験に五十一年一回で合格した。特に衛生管理者と社会保険労務士試験には、実務の経験でなく、東京交通短大卒の学歴により受験資格を得た。国家試験合格の実力と知識をどのように活かしたら良いかはその後の職場管理職における職位、立場等において管理者の模範的立場になり得ることを基本・基盤とした。生意気なことを言う機会にも恵まれたが若さや未経験により失う代償も過分にあつたことは否めない事実である。「愛を原理とし、秩序を基礎とし、進歩を目的とする」は未だに人生哲学として継続している。多くの貴重な管理職経験をさせていただきながら順風満帆な定年を迎えることができなかつたことは誠に残念でした

あつたが三十五年間勤続させていただきありがとうございました。

平成六年、第二の人生と位置付けて良いものか新たな道を歩むことになった。自分の持つ資格を活用できないかである。再就職に必要な資格は、受験に大きな力として注目された。だが、バブルがはじけた雇用条件は、こちらの望む賃金と大きな隔たりがあり、ミスマッチに苦しんだ。社会保険労務士として独立するには、大手企業の経験では総務、人事部等の管理部門の実務が物を言うが零細企業、中小企業の顧問先を開拓するには、そうした零細、中小企業の実働経験を必要とすることを考え、平成六年八月、大手の外食産業に就職した。社長室勤務を命ぜられ、大学や病院、大企業の工場の社員食堂の試食をし、社長に報告する仕事に就いたが食糧難の時代に生まれた小生の味見はいつも「うまい、良好」のアンケート結果で社長に苦情を言われ困つた。また、こうした食堂やレストランの厨房のまな板や包丁等の調理器具の衛生点検、衛生管理にチームを組成、責任者としての状況報告も仕事であつた。六本木の夜の一流レストランのディナー等、良い経験を一年半させてもらつた。

平成七年十一月総合美容業（美容、エステ、フィットネス、託児室）経営の総務部次長として再就職した。総務全般（店舗契約、賠償保険、各種保険管理、株主総会管理運営、苦情処理、店舗賃貸料の交渉、店舗衛生管理、社員の健康管理、本社社屋の全体管理等）に五年間勤務したが無理な経営が会社の前途を閉ざし、事業廃

止により、退職した。平成十三年阿部社会保険労務士事務所を開業した。現在、社会保険労務士、経営労務コンサルタントとして、主に製造業、建築土木業、不動産業、電設工事業、塗装工事業、流通卸業、貿易業、印刷業、地図製作事業等の会社顧問として、また、同業他社、顧問先企業から講師の依頼があるときは積極的に講演を引き受けている。講師の依頼と実績「平成十五年度自衛隊幹部教育（社会保険・労働保険全般）」・東京商工会議所（労働基準法の解説）・（就業規則作成のポイント）・日興コーディアル証券（年金の仕組み全般）・中高年シニアセンター労務年金相談（働きながら年金受給するには）・練馬区民・西東京市民（第3号被保険者とは）（国民年金免除の申請）（遺族年金受給の申請）（より良いシニアライフを目指すには）・東京都社会保険労務士会（社会保険労務士としての心構え）（社会保険労務士の安全衛生教育）（労働安全衛生管理の実務）。著書・寄稿＝日本法令「中小企業の安全衛生管理体制」・労働新聞安全スタッフ「新入社員の安全衛生教育」・中小企業安全衛生トレーナー会月刊誌「事故・災害を未然に防止する」等、経営労務コンサルタント・特定社会保険労務士・公認交通KYTインストラクター・東京都一種公害防止管理者・衛生工学衛生管理者・年金指導員・日本産業カウンセリング学会会員・日本FP協会FP二級技能士・東京都社会保険労務士会・自主研究「安全衛生」グループ代表世話人、ねりま異業種交流会・代表幹事等の肩書を曲がりなりにもこなしている定年のない白営業者とし

ての今日である。

(阿部社会保険労務士事務所 代表)

学生を受け入れる側として



第四〇回生
星 昭

私は平成五年三月に東交短大を卒業して京急電鉄に入社しましたが、当時はまだバブルの余韻があり、各業種とも中小企業を中心に新卒採用の意欲はまだまだ旺盛がありました。鉄道関係の採用状況に限って振り返ればJR各社は国鉄時代の採用抑制の反動があり、民鉄各社については完全週休二日制導入による要員増等で求人数は現在の状況と比較すれば隔世の感がありました。

このような状況ですので、当時の就職戦線は二年次の開始時点で始動するのが慣例となつており、就職氷河期以降の同窓生や在学生には申し訳ないのですが、随分とのんびりした学生生活でした。

在学中は学友達とあちこち行ったりして見聞を広げることが出来ました（別の言い方では遊び回っていたとも言う）。当時はまだ楽しいだけでしたが、今になつてみれば、色々と見て回つたことで、業務で役に立つこともありましたし、東交短大で学んだ知識である程度は業務に

対応出来ました。ただ就職＝即戦力とはなりませんので就職後も見聞を広め、業務の知識（特に輸送・技術系の人は）と一般教養の吸収を怠らず、職場の先輩方の指導を仰がねば業務の遂行はままなりませんでした。

現在の世のありようは、学生は就職のためだけに学生生活を捧げ、見聞を広める余裕も無く就職がゴールとなってしまい、受け入れる企業側も業務効率化で一人当たりの生産性を日々追い迫求したため新人の面倒を見る余裕がありません。

しかし両者が余裕が無いから余計な事はやりませんと言つていては就活で燃え尽きた新人と業務知識と技術を継承することも叶わざ仕事を抱え込んで窒息死している既存職員が増えるだけですので、難しいかもしれません、新人を受け入れる我々は苦しいなかでも新人が軌道に乗るまで面倒を見る事で知識と技術の継承を確実に行い先人達の伝えを途絶えさせないようにし、送り出す各学校側は卒業生の就職先を誇るのではなく、入社後の職場教育に耐えうる汎用性の高い人材を送りだしてもらえば助かります。特に東交短大は専門学校ではなく創立60周年を迎える短期大学ですので、専門性だけでなく学生の汎用性を伸ばす教育を続けて頂ければと思います。

(京浜急行労働組合 専従)

交通短大を卒業して



第四十一回生
湯川 信久

東京交通短期大学の創立六〇周年を心よりお祝い申し上げます。平成二十二年度より同窓会副会長を拝命致しております、第四十一回卒業生の湯川信久と申します。

卒業生の皆様に於かれましては、毎々短大同窓会に対するご協力・ご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

私が卒業してから十七年余りが経過し、就職、そして結婚を経て、アラフォーと呼ばれる年代になりました。

私は卒業した後に、かねてから希望していた

宿泊業界に就職しました。日本私立学校振興・

共済事業団という私立学校の共済宿泊施設に勤務することとなり、二回の転任を経て、現在は京都で勤務しております。

私が勤務する宿泊施設は、いわゆる旅館タイプであり、現在の勤務地である京都では定員五〇名の宿泊施設です。小規模な施設でもあり、勤務の内容としては多岐にわたります。

お客様への接遇・事務経理・営繕・人事管理 etc. 毎日が新鮮な発見とトラブル、そして冒険と落胆を繰り返し、日々を過ごしております。

す。

我々宿泊業界人はお客様の満足を充足させ、

その努力を日々積み重ねてキャリアアップします。十人十色であるお客様の満足がその笑顔に表れた時は、その日の晚酌がとても美味しく感じます。

昨年度、私は短大同窓会事業の一環として、過去の同窓会報のPDF化を行いました。その

作業中、同窓会報十七号に私が一年次在学中に寄稿した記事を発見しました。内容としては、将来宿泊施設の仕事に就きたいので、そのための知識を短大で取得したい、というものであります。今思えば恥ずかしいような懐かしいような複雑な気分です。

しかし、二年間という僅かな在学期間ではありました。現在の仕事に即応できるカリキュラムを当時学ぶことが出来たことはとても助かります。

また、在学中に多数の友人が出来たことは何よりも嬉しく思います。

この先、七〇周年・八〇周年……そして未来へと、更なる短大の継続御発展とともに、卒業された皆様のご活躍を心より祈念致します。

(日本私立学校振興・共済事業団)

京都宿泊所「白河院」勤務

短大卒業後の経験話



第四十一回生
武田 浩一

短大現役生だった私は、短大の就職担当の薦めにより受験した弊社である東京急行電鉄にもぐり込むもとい入社することが出来て、約十五年就いておりますが、それまでの業務の中で大変だと感じた経験について書かせていただきます。

東急に入社後配属されたのは横浜駅の駅務係でした。今では東横線はみなとみらい線と直通して横浜駅は地下化しきれいな駅になりましたが、当時は地上の高架駅でホーム・階段が狭くバリアフリーも進んでいない(その概念がなかった)ため、車いすご利用のお客様を職員四人でお連れしていました。

また、今は当たり前となつた自動改札化もみなとみらい線地下化工事のため進まず、ラツチと呼ばれる室外で係員が目視で改札するのですが、夏は暑く冬は寒い!また人通りの多いコースに面していてあらゆるお客様がご案内を頼りにいらっしゃったり、お酒を召され過ぎたお客様のお相手を担当したりしました。

まだ皆様の記憶にあるところの話では、廃駅になつた東横線の桜木町駅にも勤務する事も有りました。終点の駅だったので雨上がりは傘の

忘れ物のお届けやお問い合わせが多く、勤務日は天候ばかり気にしておりました。

：と、近年の都心近郊の鉄道の中で、当時としても珍しい経験をいたしました。

約四年半の駅業務を経て、試験に合格して東横線の車掌に就くことが出来ました。現在東横線は女性車掌がおり、現在旅客として乗ると職員によつては美声を聞くことがあります。自分が現役車掌時代は女性の声は「自動放送」でしか聞くことが無かつたのに…と思ひ出します。

乗務車両では現在は廃車や伊豆急やインンドネシア！に転属となつた八〇〇系車両も担当しておりました。空調や走行面でイマイチ奮つてくれなかつたのと、ベテラン車掌の中には「自動放送がついてない」ため、あまり好きではないという方もおりました。

車掌業務に一年就き、登用試験と国家試験に合格し、念願だつた運転士に就くことが出来ました。見習いとして配属した当初は日蒲線が、東急多摩川線と日黒線との線区切替準備の真っただ中のため、自路線の池上線と今後担当する多摩川線の習熟訓練も合わせて勉強しており、忙しかつた中にもやりがいは有りました。そして分離後は転籍してきた昭和から引き継がれている改造車を担当することになり冷暖房や加減速にクセが有り：新車に置換えも進んでいます。が現在も走つております。実直に申しますと、二〇〇七年に導入された新型車両の七〇〇系は、乗務員室の環境や走行面などかなりの面で快適です。

そして現在、あらゆる情報がネットなどを通じて即座に流れ、そのスピードに驚かされます

が、それにも対応するべく日々邁進しております。高まるお客様のニーズや鉄道員に向かられる「つぶやき」などが有ることへの認識で、執務の厳正が強く求められております。

そんなこんなのお話をオフライン（笑）で、皆様とご一緒になつた際にお話出来たらいいなと思つております。

（東京急行電鉄株 雪が谷大塚乗務区 勤務）

同窓生とのつながり



第四十五回生
泉 隆明

短大設立六〇周年、おめでとうございます。少子高齢化の社会の中、日本唯一の学校として、多摩川線の習熟訓練も合わせて勉強しており、研修センターの講師生活も丸三年となり様々なことを経験したが、昨年、短大に関係するこ

とが二つあつた。

ひとつは、クラスの中に研修生の中に短大の後輩が数人いて、彼らと面識はなかつたが「同窓会報に写真が載つていた」と声を掛けて来てくれた事である。JR東日本に就職したもののが新潟支社であり、何かと肩身が狭い思いをしてきたので嬉しかつた。なお、この声をかけてき

てくれた研修生達は、現在、東京臨海鉄道の運転士となり活躍している。

もうひとつは、別クラスのK君の事である。

三月初旬、K君を含めた回生を無事に修了させることが出来、感傷に浸つてたところに短大同期生のW君からメールが来た。その内容は、K君が自分の運転操縦の見習いだという事であつた。その後K君は、W君の指導の甲斐もあり見事試験に合格。現在、中央線の運転士となつて活躍している。恐らく、短大生同期生によるリレーにより運転士を一人育てたという事は、短大始まって以来の快挙ではないだろうか。この快挙に嬉しくなり、K君の合格を知つた日には、ひとりで祝杯をあげてしまつた。ただ残念だったのは、K君は短大卒業生では無かつたことである。今度は、研修生も短大卒業者で、短大生同期生によるリレーを完成させたいと思う。

最後に、研修センターは、JR東日本の中でも辛い勤務箇所の一つである。この辛い勤務を我慢して乗り越えることが出来るのも、鉄道が好きだからこそだと思う。これが短大生の最大の武器である。この武器を活かし更なる活躍をしようではありませんか。

（株）JR東日本 パーソナルサービス

総合研修センター 出向）

職場異動から一年



第四十五回生
阪井 宏志

ことは実にたくさんありました。

そうした心掛けなどがよかつたかどうかはなんともいえませんが、温かく接してくださる方が多いですし、どの作業においても協力的なのが素晴らしいことです。

昨年三月に発生した東日本大震災により被災

された皆様に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

昨年一二月一日で、現在の職場の一員になりました。

この一年の間、震災をはじめ本当に様々なことがあり、色々な苦労も味わいました。

震災の当日と翌日、私は仕事が休みでした。

震災の二日後からしばらくは、計画停電の影響などもあって、どの路線とも運転される列車の本数が減少しました。通勤の際にも仕事の際にも、列車の動向を気にするなど、大変な思いをしました。

その中にあって、私は現在の職場で一年をフルに過ごすのが昨年が初めてでしたから、仕事を覚えることに必死で、時間的な余裕が持てず、またその一方では細かい注意や指摘を何度も受けました。

それでも、私自身の中で、職場が変わった一年の間に、よかったですと思えたこともありました。

異動にあたり、「新しい職場で駄目なら他もない」という意識は強く持ちましたし、それ以外にも、心掛けたこと、注意したこと、守つた

若さであったと思うし後悔はしていない。若さ

というのはなかなか素晴らしいと思う。思い詰めてしまうと、思いきって行動してしまうからだ。でもこれはかなり危険も伴う。そしてい

大人になれば許されない場合もある。しかし振り返って思うのは、真剣に考え、真剣に前に進んだ苦労が人生の糧というか強さになつて残ると思う。そして努力して生活していくれば誰かが

見ててくれる。天竜浜名湖鉄道を辞めた後、もう一つ企業に勤めた後無職となつた。その時助けてくれたのが天竜浜名湖鉄道の運輸部長の田口様、運転課長の村松様だった。この方々が

私の青春と鉄道生活

第四十八回生
伊藤 圭

三鷹事業所 勤務

そのことを今の職場の方々に感謝するとともに、今のいい形・流れをさらに伸ばし、私自身もより進歩するべく、今後も意欲的な姿勢・態度で何事にもチャレンジします。

(株)JR東日本運輸サービス



明智鉄道へ推薦してくださったのだ。この頃の自分を思い出すと今でも恥ずかしいが、この時ほど人の温かさというか、ありがたみを感じた事はない。私もいつか若い人を助けてあげられる人間になりたい。そして同級生の本田君、仁科君。彼らはJRマンでたまに家族で遊びに来る。学生時代のように話が高じ互いの核心を突き時としてケンカにもなるが嫌と感じた事はない。色々と書いたがこれらの経験は私の誇りである。

(明智鉄道株 勤務)

短大を卒業して



第五十五回生

中岡 茂

平成二〇年三月に交通短大を卒業して早いもので四年と少しの月日が経ちました。私は現在、

日本貨物鉄道株式会社関東支社の大宮車両所に勤務しています。車両所では車両の検査・修繕業務を行っています。車両所に主に入場していく車種は、電気機関車従来形式車(EF65、EF64)、新形式電気機関車(EH500、EH200)、ディーゼル機関車(DE10、DD51)、貨物電車(M250)などです。

私が入社してから昨年の九月までは弱電班で機関車の電気部品の検査・修繕業務に携わって

いましたが、昨年の一〇月からは電気班に異動になり、機関車の検査・修繕業務に携わっています。電気班の作業は主に解体時に部品の取り外し、まとめ時に部品の取り付け、整備場での動作試験等、業務の範囲が広く覚えることが多く大変な日々です。また、これから車両所では新形式機関車の入場が増えてくるのでそれに向けて勉強しているところです。

話は変わりますが、東日本大震災では貨物会社においても被害がありました。具体的には関東地方から東北地方の広い範囲で鉄道輸送が寸断されました。そのような状況の中、被災地ではガソリンや灯油などが極端に不足する事態となり、政府等からの強い要請により、根岸にある製油所から上越線、日本海縦貫線を経由し、盛岡の備蓄タンク向けの鉄道輸送を行うことなどをしました。車両所では設備面では多少の被害があり、また一時仙台所属のEII500等の一部の機関車が入場出来なくなるなどありました。幸い怪我等大きな被害を被ることなく、テレビ等で被災地の現状をみると自然災害の恐ろしさを感じました。

最後になりますが、卒業生の皆様と在校生の皆様、世の中つらいことや色々なことがあるかもしれません、私もどんなときも一生懸命がんばりますので、皆様も健康に留意しながら頑張って行きましょう。

(日本貨物鉄道株式会社)

関東支社大宮車両所 勤務

今年で4回目となる、東交祭「同窓会コーナー」は、去る9月15、16日、短大、学生会のご協力を得て、校舎302号室に設置、開催しました。

今回も、同窓会活動に対するご寄付のお願いと、お礼に同窓生から寄贈された鉄道グッズの配付や、販売を行いました。また、在校生向けにJRや私鉄等交通関係会社様よりご恵送いただいた会社案内の閲覧や、鉄道業に勤める同窓生による「相談コーナー」を設け、鉄道業界等への就職や業務の実態について説明し、理解を深めていただきました。

特に今回、現役鉄道マンによる「講演会」を行い、どのようにして鉄道員になつたか、鉄道員の業務や日常生活などを、お子様にもわかるよう寸劇で演技来場者に大好評となりました。コーナーは来年も企画し、多くの同窓生のご来場をお待ちします。

また、今回の活動に際しご協力いただいた実行委員の皆さんには深く感謝申し上げます。

(実行委員長 武田 浩二)



東交祭「同窓会コーナー」

実践的かつ多角的、豊富なカリキュラム (平成24年度)

基礎科目群			
哲学	法学	英語Ⅲ	コミュニケーション論
歴史学	環境科学概論	中国語	数学Ⅰ～Ⅲ
心理学	自然科学概論	基礎ゼミⅠ～V	実務基礎能力論
文学	統計学	キャリア形成論Ⅰ	現代社会論
経済学	英語Ⅰ	キャリア形成論Ⅱ	保健体育理論
経営学	英語Ⅱ	キャリア情報論	体育実技

交通科目群			
交通概論	交通環境論	交通経済学史	物的流通論
交通経済学	交通史	鉄道経済論	自動車交通論
交通関係法規	交通会計学	鉄道システム論	海運論
交通技術論	交通需要論	鉄道運転論	航空論

観光科目群			
観光学概論	観光事業論	観光関係法規	観光プランニング実務
ホスピタリティ論	学外実習	旅行実務論	

経営・情報科目群			
企業倫理	経営法学	交通情報論	コンピュータ実習
交通の社会的責任	企業分析論	情報システム論	
経営管理論	簿記論	コンピュータ基礎	

専門ゼミ			
交通論ゼミ	交通判例分析ゼミ	観光研究ゼミ	交通会計論ゼミ
都市・地域交通論ゼミ	交通経営論ゼミ	社会政策研究ゼミ	経済政策論ゼミ

時間割 (24年度)				
1年次				
曜日	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月	13:10～14:40 観 観光関係法規①	14:50～16:20 観 観光学概論	16:30～18:00 基 基礎ゼミⅠ・Ⅱ	18:10～19:40 交通概論
		基 保健体育理論	基 基礎ゼミⅢ・Ⅳ	
			基 基礎ゼミⅤ	
火	基 キャリア形成論Ⅰ	基 数学Ⅰ	基 数学Ⅱ	基 環境科学概論
	基 キャリア形成論Ⅱ	交 鉄道システム論	基 政治経済学	基 英語Ⅲ
			基 現代社会論	
水	基 哲学	観 観光関係法規②	基 英語Ⅰ	基 英語Ⅱ
	観 観光実務論	基 経営学		
	観 観光プランニング実践			
木	基 文学	コミュニケーション論	基 法学	経 企業分析論
	基 数学Ⅲ			基 体育実技
金	基 キャリア形成論Ⅱ	経 コンピュータ基礎	基 自然科学概論	基 心理学
	経 情報システム論	基 経済学	基 実務基礎能力論	
土	特 特別教養講座	基 統計学		

2年次				
月	専 交通論ゼミ	交 鉄道経済論		専 交通会計論ゼミ
		交 航空論		専 経済政策論ゼミ
				経 交通情報論
火	経 企業倫理	交 自動車交通論	交 交通経済学	交 交通経済学史
	経 交通の社会的責任	交 鉄道運転論	経 ホスピタリティ論	専 観光研究ゼミ
		経 経営管理論	経 観光事業論	
水	基 中国語	専 都市・地域交通論ゼミ	専 交通判例分析ゼミ	
	交 交通需要論	交 交通関係法規	専 交通経営論ゼミ	
		経 経営法学		
木	交 交通環境論	交 交通会計論	経 コンピュータ実習Ⅱ	経 コンピュータ実習Ⅲ
		交 交通史		
金	専 社会政策研究ゼミ	基 キャリア情報論	経 簿記論	経 コンピュータ実習Ⅰ
	基 キャリア支援論	交 物的流通論		
土		交 交通技術論		

基：基礎科目 交：交通科目 観：観光科目 経：経営・情報科目 特：特別講座 専：専門ゼミの略
科目により前期、後期別もある。

特別教養講座の開設

(平成24年度)

昭和62年、時代のニーズに応え、最新のテーマでの講義として開設された「特殊講義」は、公開講座として学内外の専門家に講演を依頼、平成8年からは「特別教養講座」として幅広い知識の習得に役立っています。

講演者		テーマ
金ぴか先生	教育評論家、タレント	逆境をプラスに変えた人物・実話紹介
阿部 敏彦	本学名誉教授	今、何をなすべきか
尾崎 正明	東急車輛製造(株)技術開発室副室長	鉄道係員に求められるもの
斎藤 順治	JR東日本グリーンパートナーズ(株) 代表取締役社長	JR東日本の誕生から現在
森田 喬	法政大学デザイン工学部教授	地図に見る交通
花山 嘉成	(財)東武鉄道共助会、東武博物館名誉館長	鉄道と観光
小山 徹	元埼玉大学教授 さいたま市LRT研究会顧問	軌道系交通の安全を考える
米山 淳一	(社)横浜歴史資産調査会常務理事・事務局長	鉄道遺産を活かした観光町づくり
萩原 俊夫	東京急行電鉄(株)グループ事業本部 グループ営業推進課上席主査	鉄道員としての半生
太田 稔	東日本旅客鉄道(株)池袋駅長	JR東日本グループの果たすべき役割
鈴木 順一	本学名誉教授	ものいう「情報」
渡辺 史絵	鉄道ジャーナリスト、オフィスSTJ代表	路面電車とLRTについて
前田 悅子	駿河台大学経済学部准教授	少子高齢社会と年金
遠藤 ユウキ	フリーライター	廃線を辿る旅
櫻井 寛	鉄道フォトジャーナリスト	鉄道世界遺産とインドの鉄道
神立 哲男	日本貨物鉄道(株)取締役関西支社長	JR貨物の経営状況について n
井戸 大輔	日本大学商学部講師	鉄道事業における最近のマーケティング戦略
平田 一彦	東武鉄道(株)取締役財務部長	都市鉄道をめぐる経営環境
渡辺 正治	ジェイアイ傷害火災保険(株) 総合企画担当部長	東日本大震災と地震保険
半沢 貞夫	「交通年鑑」編集部、本学同窓会会長	「交通年鑑」にみる、わが国交通界の動き
君島 光夫	アジア航測(株)技術顧問	地下鉄の父・早川徳次
川島 一郎	東日本鉄道OB会東京地方本部専務理事	元気なJR東日本グループ
須田 文男	(株)ルミネクリエーツ事業部事業部長	現場が仕事の最前線 —社員一人ひとりがお客様に評価される
小澤 貴史	拓殖大学学生主事室長	社会的・職業的自立に求められること
近藤 節夫	著述業	ひとり旅のすすめ
辻村 功	クノールブレムゼ鉄道システムジャパン(株) プロジェクトエンジニア	レールに流れる電気の話
佐藤 美知男	鉄道博物館客員学芸員	日本の鉄道と英・米・独
荻野 博司	朝日新聞社元論説副本幹	新聞と私たち
湯田 晰	関東バス(株)運輸部安全管理担当部長	もっとわかりやすく、もっと安全に ～路線バスの限りなき挑戦

C型肝炎への理解・解決策

須川 拓也 (社会政策研究ゼミ)
 薬害問題/C型肝炎/C型肝炎の症状/治療法/
 C型肝炎患者は、なぜ社会から差別されるのか/
 今後、C型肝炎患者の理解への課題

**女人禁制制度と京都博覧会に関する一考察
～両者の関係を中心として**

黒川 宏行 (運輸科1年)
 女人禁制とは/京都博覧会とは
 新製品開発における企業文化の役割
 ～サントリーの事例分析

竹中 信幸 (運輸科1年)
 清涼飲料業界の分析/新製品開発と企業文化/サントリーの事例分析/結論

平成23年度**ローカル地域交通の現状と課題
～しなの鉄道を例に**

小林 詩帆里 (都市・地域交通論ゼミ)
 ローカル地域鉄道について/しなの鉄道について/
 /しなの鉄道の現状と課題/これから街づくり
 について

埼京線の慢性的な遅延の原因とその解決策

佐藤 曜 (都市・地域交通論ゼミ)
 埼京線の遅延現状/遅延の原因/現在行われている
 遅延緩和対策/筆者の考える混雑緩和対策/まとめ
 日本の高速バス

～日本の高速バスの歴史と現状

金谷 一輝 (交通論ゼミ)
 高速バスの概要/我が国における高速バスの歴史/
 高速バスの現状と課題/常磐高速バス/東日本大
 震災時の活躍

地方民鉄における再生への挑戦**～ひたちなか海浜鉄道湊線を例に**

田鍋 常幸 (交通論ゼミ)
 湊線を取り巻く環境/茨城交通時代の湊線/ひた
 ちなか海浜鉄道としての再出発/まとめ
 羽田空港国際化

永峯 浩紀 (交通判例分析ゼミ)
 D滑走路と再国際化/羽田空港のデータ/航空政
 策おわりに
兵器と交通の発展

渋谷 浩史 (交通判例分析ゼミ)
 陸上兵器と陸上交通/海上交通と海上兵器/航空
 機の発展と航空交通への派生

鉄道業界における接客・接遇に関する一考察

島崎 亮祐 (交通判例分析ゼミ)
 利用者目線から見た鉄道係員/鉄道係員を取り巻

く問題/接客と職場環境の関連性/JR九州にお
 けるサービス対応の改革

**鉄道における国際海上コンテナ輸送の現状と課題
～モーダルシフト推進のために**

佐藤 拓 (鉄道技術論ゼミ)
 鉄道による海上コンテナ輸送の歴史/輸送技術開
 発の歩み/モーダルシフトの必要性/鉄道による
 海上コンテナ輸送の課題

JR東日本E233系車両の変遷について

中川 大輔 (鉄道技術論ゼミ)
 E233系の概要/E233系ができるまで/E233系
 の詳細/E233系各番代について/従来車両との
 比較

日本の鉄道におけるバリアフリー化

ユニバーサルデザイン化の現状と展望
藤崎 祐介 (鉄道技術論ゼミ)
 バリアフリーについて/鉄道におけるバリアフ
 リーの具体例/ユニバーサルデザインについて/
 鉄道におけるユニバーサルデザインの具体例/現
 状と課題

**アニメの「聖地巡礼」に見る新しい観光**

石松 義和 (旅行論ゼミ)
 「聖地巡礼」とは/聖地巡礼の現状/聖地巡礼の
 メリットとデメリット/聖地巡礼のこれから
 第1種旅行業者における顧客志向のマーケティン
 グとマーケティング戦略

竹中 信幸 (旅行論ゼミ)
 旅行商品の特性と第1種旅行業者の現状/マーケ
 ティング戦略/事例研究/結論
食への風評被害の今とこれから

斎藤 祐貴 (観光研究ゼミ)
 風評被害の発生原因と影響/過去の風評被害/風
 評被害の今とこれから
山形鉄道「フラワー長井線」現況とこれからの展望

関川 慶太 (観光論ゼミ)
 要趣/序論/本論/結論

**ゆとり教育がもたらしたもの**

石橋 祥次 (社会政策研究ゼミ)
 ゆとり教育のはじまり/教育の歴史/ゆとり教育
 がもたらした変化/アメリカのゆとり教育/ゆと
 り教育は本当に悪いのか
自衛隊をどうとらえるか

～現在の自衛隊の活動をとおして考える
永井 健一 (社会政策研究ゼミ)
 自衛隊/憲法について/国内外での活動/それぞ
 れの主張

最近の研究成果を見る

(平成22年度・23年度研究論文集より)

平成22年度

地方交通

地方交通線の現状と取り組み～会津鉄道を例に～

岩崎 舜 (都市・地域交通論ゼミ)

第3セクター鉄道とは／会津鉄道の概要／会津鉄道を取り巻く課題／会津鉄道の取り組み／取り組みのまとめ／まとめ

わが国における高速道路の渋滞と対策

島村 利彦 (都市・地域交通論ゼミ)

道路の歴史について／渋滞の概要／定義と経済損失／渋滞の原因と代表的な渋滞箇所／渋滞対策とその効果／新線開通／まとめ

整備新幹線の開業について～北陸新幹線を例に

山岸 賢人 (都市・地域交通論ゼミ)

整備新幹線とは／北陸新幹線の概要／現在抱えている問題／新幹線の開業が与える地域インパクト／まとめ

新幹線開業と並行在来線の問題について

佐藤 崇之 (交通論ゼミ)

はじめに／並行在来線都心幹線／今後の並行在来線の展開／問題の解決策／まとめ

LRTの導入と課題

中村 亮太 (交通経営論ゼミ)

路面電車とLRT／海外のLRT導入事例／日本初の試み／新たなLRT導入計画と課題

整備新幹線事業について～東北新幹線を中心

須藤 和典 (交通判例分析ゼミ)

整備新幹線事業について／東北新幹線青森駅開業による地域効果／東北新幹線在来並行線問題／終わりに

東武東上線の輸送からみたサービスの現状

谷口 亮太 (交通判例分析ゼミ)

東武東上とは／列車運行の実態／利便性向上のための取り組み／これからの中東上線

JR中央線の高架化と開かずの踏切問題について

長谷川 遼 (交通判例分析ゼミ)

JR中央線について／踏切について／中央線における開かずの踏切問題／中央線高架化工事について／中央線のこれから／いろいろな踏切

新幹線の歴史と今後の新幹線の動向について

竹中 駿介 (鉄道技術論ゼミ)

東海道新幹線前史／東海道新幹線通史／山陽新幹線との直通運転／調整期／のぞみ登場／新世代の東海道新幹線／東海道・山陽新幹線の車両／今後の新幹線の動向

一畠電鉄

原田 裕大 (鉄道技術論ゼミ)

一畠電鉄の歴史／車両の変遷／一畠パーク／現在の一畠電車／映画

鉄道技術発展に伴うサービスの変遷について

松本 真之介 (鉄道技術論ゼミ)

利用客に対する鉄道技術の発展／サービスと技術発展の歴史／各サービスの向上／旅客が望むサービス展開／おわりに

観光

アニメの作品舞台からなる観光の可能性

小笠原 敬 (旅行論ゼミ)

「聖地巡礼」のはじまり／アニメ作品を観光資源とした事例／今後の発展の可能性

神奈川県・三浦半島地域における観光振興

鳥居 輝 (旅行論ゼミ)

はじめに／三浦半島の概要／三浦半島観光の歴史と現状／主な観光地とその行政／将来指針／おわりに

大井川鐵道本線と隠れたスポット

山田 悠貴 (旅行論ゼミ)

大井川について／大井川鐵道／大井川鐵道周辺の隠れスポット／周辺地域住民の鉄道の利用実態音響の進歩と発展について

木下 瞭 (観光研究ゼミ)

はじめに／音響とは／歴史について／音響の社会での役割／これからの発展／結論

神奈川県のヒートアイランド現象

瀬戸 大輔 (観光研究ゼミ)

はじめに／研究史／ヒートアイランドとは／調査地の概要／調査方法／結果／考察

日本の食文化、「カレーライス」

長沼 正志 (観光研究ゼミ)

日本にやってくるまでのカレーライス／日本の国民食への歩み／カレー七変化

社会政策

中核的労働基準とディーセント・ワーク

阿部 浩之 (社会政策研究ゼミ)

ILOの概要／中核的労働基準の概要／ディーセント・ワークの概要

秋葉原の変化と今後の姿

大瀧 裕明 (社会政策研究ゼミ)

秋葉原とは／電気街の誕生と衰退／オタク文化の誕生と発展

鉄道会社・一般企業で就職する同窓生

鉄道会社への就職状況

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
北海道旅客鉄道株			1						
東日本旅客鉄道株	8	8	5	8	7	1	2		2
東海旅客鉄道株					2	2	2	2	
西日本旅客鉄道株	2	1	3	3			1		
四国旅客鉄道株				1					
日本貨物鉄道株関東支社			6	7	5	9	1		
日本貨物鉄道株関西支社				1	1				
日本貨物鉄道株東海支社						2			
東京地下鉄株	3	2		6	7	6	7	2	2
東京都交通局								2	2
東京都交通局協力会	6	13	14	4	6	3	13	13	4
小田急電鉄株			1	1		1			
東京急行電鉄株			1	1					
西武鉄道株								1	1
京王電鉄株							3		
京成電鉄株	2	1	1			1	2	1	
東京モノレール株						1			
名古屋鉄道株					1		2		
京急ステーションサービス		1	2	1	2	3	4	2	2
東武ステーションサービス					1	3		2	1
JR東日本グリーンスタッフ				3	1			1	4
新幹線メンテナンス東海	1	1			1				1
埼玉高速鉄道株				1					1
北総鉄道株		1							
江ノ島電鉄株		1			1		1	1	
首都圏新都市交通株	4	3	2				1	3	2
関東鉄道株		2			1	1	1		
上田電鉄株						1			
秩父鉄道株						1			
遠州鉄道株		1							
大竜浜名湖鉄道株	1		1	1		1			
北越急行株						1			
伊豆急行株				1		1	1		
しなの鉄道株			1						1
東海交通事業			2		1	1			
富山地方鉄道		1				1			
JR西日本交通サービス			2		2				
阪急レールウェイサービス			2						
井原鉄道株			1						
松浦鉄道株								1	
筑豊電気鉄道株			2						
北近畿丹後鉄道株					1				
多摩都市モノレール株						1			

主な鉄道会社以外の就職企業

小田急トラベル
JTB首都圏
蓼科グランドホテル
東急リゾートサービス
交通建設
吉原鉄道工業
東海エンジニアリング
東武電設興業
岡山県貨物運送
岩手県交通
和光観光バス
静鉄ジャストライン
南茨城三菱自動車
中央スバル自動車
横浜日産モーター

北関東マツダ
オートバックス山梨
ネットコタ
ホンダブリモ
帝都自動車
大和運輸
ソクハイ
アイエムエキスプレス
奈良県税務事務所
八王子市役所
さいたま市役所
簡易保険福祉事務所
地下鉄互助会
京王地下駅車場
日本レストランシステム

東武食品サービス
明星外食産業
ペイシア
レストラン森永
すかいらーく
華屋与兵衛
松屋フーズ
ビッグカメラ
ヨドバシカメラ
ヤマダ電機
全日警
アサヒセキュリティー

4年制大学への編入
流通経済大学
駿河台大学
産能大学
帝京大学
東洋大学
東京情報大学
駒沢大学
中央大学
東北学院大学
帝京平成大学
清和大学
日白大学
大阪経済法科大学

学生生活を楽しむ——クラブ活動

鉄道研究部

7月のオープンキャンパスと鉄道模型運転会、そして秋の東交祭では教室いっぱいに繰り広げられる鉄道模型のレールの上を、各部員の車両が走り回り、自慢の腕を競い合います。

自動車部

主な活動は、カートレースやレース観戦、ツーリング。各地で繰り広げられるサーキットを転戦します。

野球部

学年別対抗戦や他のサークルとの交流試合、また学外の草野球チームとも対戦を行い、交流を深めています。

バドミントン部

創部半年あまりで、日本私立短期大学協会主催の全国大会に出場。学期中はもちろん、休み期間中も練習に励む、チームワークを大切に

交通模型部

模型による人とのふれあいがテーマの部です。幼稚園訪問など、学外にも交流の場を広げる積極的な活動を展開し、運転会等を通じ新たな活動を模索します。

ボーリング部

ミーティングとゲームで団結力を重視、プロボーラーから投げ込みの指導を受けるなど、技術向上にも積極的。学外レクリエーションの企画・運営にも活躍します。

航空研究部

航空や空港アクセスを中心に、他の交通との比較を視野に入れた研究など、趣味を超えた活動は知識の習得に役立っています。

旅行部

旅行好きが大集合。鉄道のたびにこだわらず、日本全国の名所旧跡など主な観光地を訪ねます。

フットサル部

豊富な練習メニューをこなし、大会にも積極的参加する姿勢は、練習で培った抜群の集中力とチームワークの賜物。ミーティングでは熱いサッカー談義に華が咲きます。

将棋部

初心者から有段者まで、みんなが楽しめる将棋。学内将棋大会の開催など将棋の普及に努めながら、囲碁やオセロの研究も取組んでいます。

学生会

学外レクリエーションや東交祭、交通見学会など、交通短大にはたくさんの行事があります。

これら行事に学生の意見を反映させる組織が学生会です。有意義な2年間とするため様々な活動を開展します。

イベント・スケジュール

4月	入学式 新入生オリエンテーション
5月	1年次学生相談 学外レクリエーション
6月	第1回オープンキャンパス 2年次学生相談
7月	前期試験
8月	夏期休暇 専門ゼミ合宿 サークル合宿旅行 第2回オープンキャンパス 第3回オープンキャンパス
9月	東交祭（学園祭） 1年次、2年次ガイダンス
10月	1年次学生相談 専門ゼミ説明会 交通見学会
11月	2年次学生相談
12月	専門ゼミ発表会 冬期休暇
1月	後期試験
2月	単位取得者発表
3月	卒業式・祝賀会

主な出身校一覧と最近の都道府県別入学者数

(出出身校は昭和27年から9年)
62年・平成7年から

大和南 百合丘 横須賀学院 横浜 横浜市立戸塚 横浜商科大 横浜商工 横浜隼人	山梨園芸 谷村工業 吉田	三重県 上野商業 宇治山田商業 海星	香川県 高松 高松工芸
長野県 赤穂 飯山北 飯山南 上田	上田東 上田西 大町 岡谷工業 岡谷東 岡谷南 上伊那農業 木曾 北佐久農業 小諸商業 佐久	滋賀県 伊香 堅田 長浜北	愛媛県 宇和島南 大洲 川之江 川之江 吉田 新田
京都府 大谷 鴨沂 京都兩洋	高知県 高知追手前 高知	大阪府 近畿大附属 啓光学園 桜宮 住吉 天王寺	福岡県 飯塚 浮羽工業 嘉穂 京都 嘉穂農業 修猷館 田川 太宰府 築上中部 東海大第五 豐津 三池 宗像 若松 八女学院
兵庫県 神港学園神港 神戸市立神戸西 東兵庫	奈良県 御所東 添上 十津川 奈良高等専修	佐賀県 嬉野商業 鹿島実業 唐津西 佐賀商業 鳥栖	和歌山県 和歌山商業
岐阜県 多治見 東濃 斐太 不破 瑞浪	鳥取県 境 鳥取西 鳥取農業 米子 米子東	長崎県 大村 大村工業 川棚 五島商業 西海学園 鎮西学院	滋賀県 大村 大村工業 川棚 五島商業 西海学園 鎮西学院
静岡県 稻取 市立沼津 磐田南 掛川工業 加藤学園曉秀 御殿場 静岡学園 静岡工業 島田 島田学園 下田北 下田南 裾野 田方農業 韭山 沼津商業 沼津市立沼津	島根県 大田 松江工業	岡山県 烏城 岡山朝日 勝間田 興陽 下野 津山 興譲館 金光学園	熊本県 荒尾 菊池 球磨工業 多良木 熊本第一工業
石川県 飯田 宇出津 金沢錦丘 小松工業 七尾商業 七尾農業 羽咋 町野 輪島	広島県 音戸 呉三津田 日影館 油木 広陵	大分県 大井上野丘 大分中央 三重農業	大分県 大井上野丘 大分中央 三重農業
福井県 大野 丹生 丸岡	宮崎県 高鍋 都城泉ヶ丘 日向 日向学院	鹿児島県 阿久根 大島 川内商工	宮崎県 高鍋 都城泉ヶ丘 日向 日向学院
山梨県 石和 市川 桂 峠南 峠北 巨摩 甲府工業 甲府第一 須玉商業 都留 帝京第三 東海大甲府 菲崎工業 日川 日大明誠 機山工業 富士学苑	愛知県 愛知工大名電 一宮西 刈谷 蒲郡東 小坂井 昭和 東海南 農橋東 名古屋大谷 名古屋学院 名古屋工学院 名古屋商業 半田商業 同朋	沖縄県 浦添商業	ドイツ ブレーメン
	徳島県 小松島 鳴門		

平成	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
北海道	1	1	1		1	1	1	1	1	
青森県	2		2	1			1	1	1	1
岩手県	1	2	2	3		1			2	1
宮城県	2	6	2	1	2	3	4	2	3	4
秋田県		1	1		1	1	2	2		1
山形県	1	1		1	1		1	4	1	1
福島県	1		2	2	3	6	3	7	1	4
茨城県	3	5	2	5		6	4	1	3	3
栃木県	2	7	4	3	2	4	5	4	3	3
群馬県		3	3	3		1	3		1	
埼玉県	20	12	7	8	18	15	11	14	18	23
千葉県	8	3	7	7	9	11	10	14	10	8
東京都	29	28	34	17	17	20	31	19	16	17
神奈川県	10	11	13	7	17	21	10	21	16	16
新潟県	4	1	2		2	2	4	3	3	1
富山县	1			1						1
石川県			1		1					1
福井県			1							
山梨県	1	3			1	1				1
長野県	2	6	2	2	3	3	5	4	2	4
岐阜県	1			1		1				1
静岡県	4	1	5	5	4	3	5	3	6	3
愛知県	4	3	1	4		3	2	2	5	1
三重県										
滋賀県										1
京都府		2	1	1	2	1	1			
大阪府	2			2			1			1
兵庫県		5	1		1	1		1		1
奈良県		2		1				1		
和歌山県									1	
鳥取県				1				1	1	
島根県				1						
岡山県										
熊本県										
大分県										
宮崎県										
鹿児島県										
沖縄県										
ドイツ										
ドイツ ブレーメン										
合計	107	111	101	80	88	111	110	107	102	101

学校法人豊昭学園

東京交通短期大学

創立60周年記念式典・祝賀会

東京交通短期大学創立60周年記念式典・祝賀会が、平成24年11月15日、池袋・ホテルメトロポリタンで開催されました。

式典では、学校法人豊昭学園団長理事長・東京交通短期大学田中學長の挨拶、来賓の日本交通学会塙見会長のご挨拶に続き、東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授・家田仁先生による「国際的視点からみた日本の鉄道とその将来」と題した記念講演が行われました。

式典に続き、祝賀会が行われ、東京都私立短期大学協会湯浅会長、豊島区三田教育長、運輸調査局福眞理事長、JR東日本池袋駅太田駅長の皆さんから祝辞をいただきました。

同窓会では、川島顧問をはじめ、半沢、湯川、八木橋、岩井、岡、武田、木内、園田、松本の各役員が出席し60周年を祝いました。



東交大同窓会報・第35、36号合併号

平成25年2月1日発行

東京交通短期大学同窓会

発行責任者 半沢貞夫

60周年記念号編集委員

星 昭、湯川 信久、八木橋孝尚、

岡 幸雄、武田 浩一、岩井 雄太、

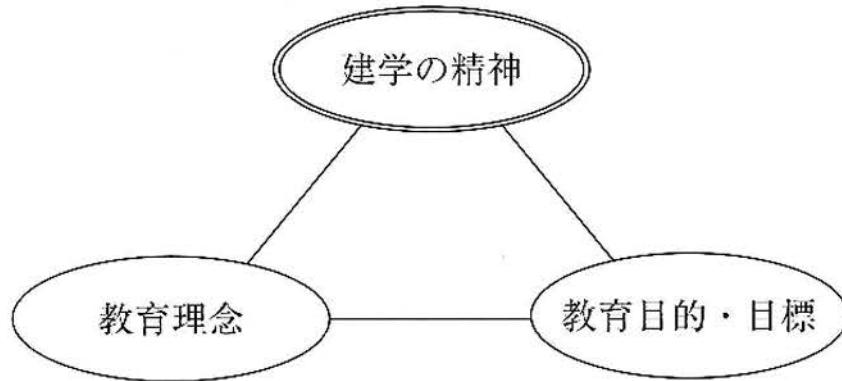
木内 徹也、園田八千穂、松本真之介

〔お詫び〕 本記念号は、24年11月発行を予定していましたが、都合により発行が遅れましたことをお詫びいたします。

会長	副会長	書記	会計	会計監査	総務	顧問	編集長	大沼昭里
新井山勝弘	川島一郎	清水梅太	(兼)川島秋山和瑛	(兼)川島秋山和瑛	鈴木靖男	川島一郎	新井山勝弘	新井山勝弘
新井山勝弘	川島一郎	鈴木靖男	川島秋山和瑛	北原忠良	鈴木靖男	川島一郎	新井山勝弘	新井山勝弘
新井山勝弘	川島一郎	鈴木靖男	高橋千早	小林好富美	高橋千早	北原忠良	川島一郎	新井山勝弘
新井山勝弘	川島一郎	白井仁美	秋山和瑛	高橋千早	秋山和瑛	天野博昭	川島一郎	新井山勝弘
新井山勝弘	川島一郎	西形伸次	高橋千早	高橋千早	高橋千早	西形伸次	川島一郎	新井山勝弘
新井山勝弘	川島一郎	星昭	湯川信久	星昭	星昭	星昭	川島一郎	新井山勝弘
新井山勝弘	川島一郎	八木橋孝尚	八木橋孝尚	八木橋孝尚	八木橋孝尚	八木橋孝尚	川島一郎	新井山勝弘
新井山勝弘	川島一郎	武田浩一	岩井雄太	岩井雄太	岩井雄太	岩井雄太	川島一郎	新井山勝弘
新井山勝弘	川島一郎	西形伸次	半沢貞夫	半沢貞夫	半沢貞夫	半沢貞夫	川島一郎	新井山勝弘

東京交通短期大学の建学の精神および教育理念

本学の建学の精神および教育理念の全体像



建学の精神

本学は、「質実剛健」（飾り気がなく眞面目で、たくましく、しっかりしている）を旨とする建学の精神を継承・発展させて、社会の発展に貢献する有意な人材を育成するためにたゆまぬ努力を果たす。

教育理念（ミッション）

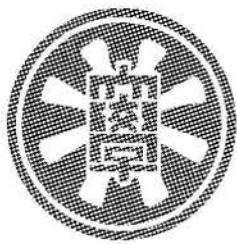
本学は、建学の精神に則り、交通産業関連分野でリーダーシップを發揮する教養ある専門性を有する人材の育成を目指す。

1. 時代や社会の要請に対応できる人材の育成
2. 交通産業および関連分野で、専門家として実践力を持つ人材の育成
3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる自己表現力のある人材の育成

教育目的・目標

本学は、建学の精神および教育理念を具体化するために、次のとおり実現を目指す。

1. 一般教養および専門的知識を統合的に身に付けさせる
2. 交通産業関連で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身に付けさせる
3. 徹底した少人数教育を通じて、実践力を身に付けさせる
4. 情報社会に対応するための基本処理能力を強化する
5. 地域および社会の発展に貢献する倫理観と責任感を涵養する



東京交通短期大学同窓会

〒 170-0011 東京都豊島区池袋本町 2-9-1
(東京交通短期大学内)